

# 輸入粗飼料の情勢

全 酪 連  
購 買 生 産 指 導 部  
購 買 推 進 課

## 北米コンテナ船情勢

北米西海岸のロサンゼルス港の発表によると、11月8日時点のロサンゼルス及びロングビーチ港沖合におけるコンテナ船の滞船数は7隻となっています。1年前の2021年11月16日付の発表が両港沖合で89隻の滞船であったことを考えると、今年は夏場以降、海運情勢は改善しており、その他の西海岸各港を含め、落ち着いた運航が続いています。背景には、長引く北米西海岸における港湾労使交渉や年末年始の港湾混雑等のリスクを避けるため、小売業者を中心に西海岸から東海岸のサバンナ・ニューヨーク港等に輸入貨物を移行していることや、米国におけるインフレの影響で、消費が落ち込み、西海岸の輸入量が減少していることも影響していると考えられています。

一方で労使交渉は使役者団体の PMA と港湾労働組合 ILWU による協議が現在も続いています。オークランド港では、11月2日に ILWU の組合員が、単独でターミナル前で争議行動を実施しました。輸出コンテナの搬入が滞り、ターミナルにおける作業性の低下を招きましたが、1日間の争議行為であったため、大きな影響は出ていません。この先、11月に米国中間選挙を控えています。物流の混乱から米国内の更なるインフレを避けるために米国政府も関心を示しており、引き続き交渉の経過には注視が必要です。

## ビートパルプ

【米国】

産地ではビートの収穫が本格化し製糖作業と同時並行で進められています。工場のメンテナンス作業の遅れや、労働者不足、工場へのビート原料輸送の遅延等により、当初の予定よりも工場での生産に遅れが生じています。またビートの収量が予想よりも少なく、新穀である22-23年産ビートパルプの生産量減少も懸念されています。

産地での引き合いについては、早魃に直面する欧州や引き続き穀物相場が高値なことから米国内からの需要が強くなっており、余剰はない状況です。

## アルファルファ

ワシントン州

主産地であるコロンビアベースンでは3番刈及び、一部の圃場で生産されている4番刈の収穫作業が終盤を迎えています。22年産は春先の冷涼な気候や1番刈収穫前に断続的な降雨があったため、収穫作業の開始が3~4週間遅れました。2番刈以降でも収穫スケジュールの遅れを挽回することはできず、多くの圃場で例年生産される4番刈の

収穫ができない状況となりました。

3番刈～4番刈の品質については、収穫時の山火事による煙の影響で通常よりも乾燥に時間を要したため、色目が悪く、過乾燥気味な中級～低級品の発生が中心となっています。

産地相場については、上級品は年間を通し発生量が限られたため、引き続き高値で推移しています。



(ワシントン産3番刈アルファルファ 左：上級品 右：低級品 10月中旬撮影)

## オレゴン州

オレゴン州南部クラマスフォールズでは4番刈の収穫作業が終盤を迎えています。22年産は1番刈の収穫の遅れに加え、3番刈においても、9月の収穫前に断続的な降雨があったことから収穫作業が遅れ、一部の圃場を除き多くの圃場で4番刈の収穫ができず、3番刈で22年産の生産を終えています。

産地相場については引き続き、米国内需における上級品の需要は衰えておらず、上級品の相場は2番刈と比較し、やや上昇傾向にあります。

## ユタ州

ユタ州中部デルタ地区では、現在4番刈の収穫が行なわれています。産地では冬季に差し掛かり冷涼な気候になっていることから、輸出向けに十分な乾燥ができないことから、4番刈の大半は内需向けに出荷されます。22年産の作況については、1番刈は平年作であったものの、7月末から収穫開始された2番刈、9月下旬から収穫された3番刈において、収穫期に断続的な降雨があったため2番～3番刈で多くの雨当たり被害が発生しています。

## 米国産チモシー

ワシントン州コロンビアベースンとエレンズバーグでは2番刈の収穫を終えています。作況について、1番刈は収穫期に天候に恵まれたこともあり、上級品中心の発生と

なりました。2番刈は夏場の収穫になったことで、収量は低く、生育が早かったため、穂が着く前に早々と刈り取った影響で中級品中心の発生となりました。

産地では馬糧向けの上級品は輸出向け及び米国内需向けに順調に出荷されている一方、酪農向けについては、これまでにない価格で高止まりしていることから、日本・韓国向けの需要が減少しており、各輸出業者、出荷は低調なものになっています。

## スーダングラス

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、2番刈の収穫作業が終了しています。冬に近づくにつれて冷涼な気候になり生育が望めないことから、3番刈まで進む圃場は非常に限定的です。産地では9月に引き続き、10月中旬にも降雨があったため、茎が太い低級品において雨当たり品が多く発生しています。米国内肥育農家は品質を問わず価格が安いものを優先的に買付けすることから、雨当たり品は米国内需向けへと捌かれています。輸出業者によると、産地在庫は中級品～上級品で多少余剰在庫があるものの、低級品は成約済みとなっています。



(インペリアルバレー産低級品スーダン 10月下旬撮影)

## クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、5番刈の収穫作業が終盤を迎えています。産地では冷涼な気候になっており、今後生育が見込めないことから、大半の圃場において、5番刈で22年産の生産を終えています。

## バミューダ

主産地であるカリフォルニア州インペリアルバレーでは、圃場により4番刈～5番刈が収穫されています。バミューダハイの上級品は相変わらず国内の馬糧向けに高値で取引されています。また22年産は住宅用のバミューダ種子の需要が強かったこともあり、種子用の生産が増加している反面、バミューダハイの生産量は例年よりも少なくなっています。

## カナダ産チモシー

主産地であるアルバータ州中部クレモナ地区では、22年産の収穫作業が終了しまし

た。22年産の作付面積は概ね昨年並みとなっています。生育期に降雪や降雨があり、土壌水分も十分な状態で収穫がされたことから、1番刈の単収は3トン/エーカーとなり、生産量は例年並みとなりました。作況としては収穫期に天候に恵まれたため、上級品から中級品中心の発生となったものの、冷涼且つ湿度が高かったことから、例年よりも乾燥に時間を要し、色抜け品の発生も散見されました。

同州南部レスブリッジ地区でも、22年産の収穫作業が概ね終了しています。9月中旬から始まった2番刈の収穫は、収穫期序盤に降雨があり、10月においても降雨や、霜害の影響を受け低級品～中級品中心の発生となっています。

22年産は両産地とも生産量は例年並みにありますが、内需において越冬用の牧草確保のため、引き合いは強く、産地相場は堅調に推移しています。

## 豪州産オーツハイ

10月の豪州は多雨に見舞われ、降水量は観測史上2番目に多いものとなりました。特に東豪州は記録的な豪雨となり、22年産の収穫に大きく影響が出ています。11月も東豪州から南豪州にかけて、平年以上の降水量となる可能性が高いと予報されているため、今後も天候や収穫状況の動向に一層の注視が必要です。

## 東豪州

東豪州に位置する、ニューサウスウェールズ州とビクトリア州における、10月の降水量は、同月比で観測史上最も多いものとなりました。河川の氾濫や洪水が発生し、多くの都市で浸水や停電が発生し、道路が閉鎖されるなど、日常生活においても多大な影響が出ています。オーツハイもこの豪雨の影響で圃場がぬかるみ、収穫できないため、9月末より始まった22年産の収穫は現時点で5%程度の進捗となっており、この先の天候次第では、オーツハイでなく穀物の燕麦として収穫が進められる予定です。また収穫されたオーツハイもほとんどが雨あたり品となっており、上級品の発生は見られていない状況です。

## 南豪州

南豪州でも収穫期に大規模な降雨があり、刈遅れや雨あたり品の発生が多くなっています。現在までに40～50%程度の収穫が完了しており、今後も収穫作業は続きますが、不安定な天候が続いているため、この先の天候次第では、刈遅れや雨あたり品の発生が多くなり、中級～低級品中心の発生になる見込みです。

## 西豪州

西豪州では、22年産の収穫作業は順調に進み、10月中旬より新穀の出荷が開始されています。生育期及び収穫期の天候に恵まれたため、収量も平年以上で成分値も中級品～上級品程度のものが多く収穫されています。産地では22年産の収穫作業11月中旬にも終わる予定です。

以上